

活動レポート

道央技術士会

活動報告

はじめに

道央技術士会では2009年度の上半期の活動として、7月29日に北海道電力苫東厚真発電所の見学会を開催しました。

苫東厚真発電所には3基のユニットがあり、総出力は165万kWです。昭和55年10月に1号機(35万kW)、昭和60年10月に2号機(60万kW)、平成14年6月に4号機(70万kW)が運転を開始しました。泊発電所とともに北海道の基幹電源としての重要な役割を担っています。

1. 北海道電力苫東厚真発電所見学会

日時：平成21年7月29日(水曜日)

14時00分～16時30分

スケジュール

- 14:00～14:30 スライドによる施設説明
- 14:30～15:20 本館タービン室等施設見学
- 15:20～15:30 1階ブーススペースでの説明
- 15:30～16:00 資源の有効活用
(石炭灰のリサイクルについて)
- 16:00～16:30 質疑応答



岸代表幹事 挨拶



スライドによる説明



タービン・発電機



操作室での説明



1 階ブーススペースでの説明

今回、見学した北海道電力苫東発電所が供給している電力量は 165 万キロワットで、北海道に必要な電力の 1/3 をまかなっているそうです。使用される石炭は、かつて国内炭を使用しており、三笠からのダンプ運搬、釧路からは船舶で運搬していたそうです。現在はオーストラリア、カナダ等海外からの輸入炭で、かつては中国からの輸入もあったそうですが、現在、中国では自国の供給が主体となり輸出はしていないそうです。使われる石炭は 15,000 トン/日と膨大な量で、それに伴い大量の石炭灰が発生します。北電では産業廃棄物の発生抑制 (Reduce)、再利用 (Reuse)、再資源化 (Recycle) の 3 R 推進に取り組んでおり、発生する石炭灰のほとんどは、セメント材料 (フライアッシュ) や道路材料 (路盤材、凍上抑制材、アスファルトフィラー等) に有効利用されていますが、処理できない量も数%あり、埋め立て処分しています。埋め立てでは用地不足の問題



2 号発電機屋上より施設全景を展望

があり、今後の課題だそうです。

今回の見学会には、苫小牧工業高等専門学校にマレーシアから留学中のヌラナ・ビンティ・アリアスさんにも参加いただきました。

※おわりに

見学会当日は、あいにくガスが発生し屋上からの眺望もいまひとつだったのですが、晴れた日には雄大な勇払平野から太平洋を見渡すことができすばらしい眺望だそうです。事前に申し込めば、見学会はいつでも可能とのことなので、興味のあるかたは是非問い合わせしてみてください。

以上、7 月 29 日に実施した見学会について報告しました。年内にあと 1 回ほど講演会等を企画しようと考えています。

(文責：道央技術士会 事務局 遠藤 清武)